

1年 星の花が降るころに

組 番 名 前

Step 1

夏実と戸部君に対する「私」の行動や様子とそのときの心情を、空欄をうめてまとめよう。また、場面ごとの「私」の心情の変化を線で書き表してみよう。

公園で	放課後 校庭で	廊下で	昼休み 教室の中で	回想	
					「私」の心情の変化
※銀木犀のある公園に立ち寄る。 ※夏実との思い出が詰まった袋の中の （ 星形の花 ） を土の上に ばらばらと落とした。	※「——あたかもしれない」 ・二人で顔を合わせてふき出した。	※夏実は顔を背け、目の前を通り過ぎて行った。 ・戸部君がこちらを見ていることに気づいた。 ・唇がふるえ、目のふちが熱くなった。	※夏実の姿が目に入った。 （ ぎこちなく ） 足をふみ出した。	・夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。 ・戸部君を押しつけるようにして廊下に向かった。 ・戸部君をにらんだ。	「私」の行動や様子
▼ （ 大丈夫 ） 、きつとなんとかやっていける	▼やっぱり戸部君って、 （ わけがわからん ）	▼ （ 織細さのかけら ） もない戸部君のことが気がかりだった ▼憎らしくてしかたがなかった ▼自分の考えていたことがひどく く、くだらない （ ）に思えてきた ▼やっぱり戸部君って、 （ わけがわからん ）	▼自分の （ 心臓 ） がどこにあるのかわかりなかった ▼音のない （ コマ送りの映像 ） を見ているよう ▼きまりが悪くてその場を離れる	※ぼんやり思い出していた ▼ （ わけがわからない ） ▼今日こそは （ 仲直りをする ） と決めてきた	「私」の心情

Step 2

戸部君との関わりによって、「私」の心情はどのように変化したのか、印象的な場面をあげてまとめよう。

「私」は戸部君を繊細さのかけらもなく子供っぽいと思っていた。しかし、黙々とボールを磨く姿や落ち込んでいる「私」を冗談で元気づけてくれたことから戸部君に対する見方が変わり、私自身も前向きな気持ちになっている。